多賀工業会千葉県支部会報

（茨城大学工学部）

第１６号

梅ケ瀬の峡は遊歩の道除し
春ふかくして　驚わたる

房総の屋根　歩み来て　大福山に
みどりの展望　みどりの日の今日

見つけたる　日本タンポポの種子を摘み
希少価値よと　妻は懐紙に

海洋法　関連　四法　可決さる
二００カイリ　総新漁業に光を

暑き夏　竣工祝ふ　えひめ丸
果てなき海に若人　巣立つ

耐ふることの極限見たり　マラソンのゴールを
見たり　五輪終れり

高山　　和夫　　２２機械

『高齢化』を考える　　支部長　山田　泰雄　１９機械

今日『高齢化』の文字が、マスコミ紙上に載らない日はありません。
勿論、人間社会も成長期－成熟期－衰退期と変遷して行くことは避けられませんが、このサイクルが正常に作動してしておれば、民族も国家も衰亡して行くことはないと思います。

高齢者は、
ケネディ流に言えば「国が何をしてくれるかでなく国のために何が出来るか」でしょう。

６０才以上の全人口に占める割合が２０１０年には２５％を超え、就業者の人達が２人か３人に１人の割合で支えるということを強調しており現在６０才を定年としている企業が大多数であります。
また、各地でも「老人大学」なる学習機会を６０才からとしております。
然しながら、６０才を過ぎても勤労能力も意欲も衰えてない人が多いのです。
この成熟した能力を生かすことが、個人にとっても社会にとっても、必要ではないでしょうか。

アメリカでは、６５才から７５才の人を「ヤング・オールド」・
７５才以上の人を「オールド・オールド」と称しているそうです。
同窓生の諸氏の大多数の方は、企業という「タテ社会」に生きてきて、その「タテ糸」が、プッツンすると浮遊してしまいかちです。

それを防ぎ活力を保つため「ヨコ糸」を張っておく必要があります。

ある機関の調査報告で「日本・タイ・アメリカ・デンマーク・イタリア」の６０才以上の男女で「親しい友人がいる」のトップはアメリカの９３％・日本は６６％のビリ。

更に「同性と異性の両方の友がいる」はアメリカとデンマークの６０％が最高で、日本は１０％でこれも最低。

また「社会とかかわりをもって生活したい」高齢者は、他国より多かったが現実には「近所付合いが殆どない」のも、日本が一番多いとなっています。

どうやら『人貧乏』といえましょう。

私達は貯金も大切ですが『貯人』も心かけるべきです。

同窓会がそのお手伝いが出来れば望外の幸せといえます。

世相雑感　　檜山　邦良　３０機械

沖縄の米軍基地縮小対策のため沖縄で行われている「米軍実弾射撃訓練」を本土の５ケ所の自衛隊演習場へ分散移転する方針で日米政府が合意し実行に移すことになった。
この政策が「沖縄の痛みを本土も」という沖縄の声が通じ地元にすんなり受け入れられるとは誰も思わないであろう。却って沖縄基地問題の火種を本土に振り撒くことになるのではと、この政策の決定に小首を傾げたくなるのである。

ところで私は８年前まで防衛庁に在職しその最初の約１０年間を「新砲弾の研究開発」の仕事に従事した。
その間、試作砲弾の試験のため度々演習場を使用したので些か演習場の事情に通じているつもりである。すべての自衛隊の演習場は年間超過密スケジュールであり、その割当日程は前年に厳しく審議され定められる。
そして使用日数は、要求の３分の１位まで削減されるので、研究開発の進捗に支障をきたす程であった。

米政府は年４回・３５日以内の訓練を移転する方針に対し臼井防衛庁長官は「自衛隊の演習を削減し地元の負担を軽減した」と述べたが、削減しなければ受け入れられないのが実態であろう。
我が国最大の演習場は、北海道根釧原野にある矢臼別演習場である。
それでも最大射程はたったの１８Ｋｍしかとれない。現在、我が国の野戦砲弾は、３０Ｋｍ余の射距離（東京－千葉市迄の直線距離）がある。

これを「フルレンジ」で射撃出来る演習場はない。
そこでこの砲弾の研究段階は矢臼別演習場の最大射程内に落下させるため境界近くから異常な低射角で射撃を行った。
すなはち通常の射角で撃つと遥か演習場外に落下するからである。

砲弾の射距離は初速・射角・大気条件（弾の通る気温、圧力、風向、風速）で決まる。
初めて射撃する場合、射角や方向の値は（計算の結果によるもの）を計算機に入力する。空力・運動力学の諸係数および大気条件の入力値が適正かどうかが命中精度を左右する。
また前述した低射角の射撃は弾着誤差を大きくする。狭い弾着区域から外すことは警戒や観測隊員を危険に晒すので絶対に外せない。

新しい試作砲弾の初射撃の時・着弾まで１分位飛翔する間・観測隊員から、「弾着ヨシ」の報告を受けるまで緊張し、立っていられず座り込んでしまったこともある。とにかく、狭すぎるのである。

私が携わった射距離３０メロメートル余の野戦砲弾は、その後米国で射撃が行われ、列国を凌ぐ性能が実証された。本文の方は本題から外れ、手前味噌になったが「日本の狭隘な国土から演習場を追い出せ」という住民投票もありかねない。
さりとて外国で射撃をすれば「武器輸出・海外派兵」になる国柄である。
ひたすら、地域住民と協調して演習場を維持しなければならないのである。

ただ・歩くだけ　　三幣　正人　　２４機械

１８５９年・「種の起源」を発表したイギリスの博物学者ダーウインは自然淘汰にもとずく進化論を展開した。

人類の祖先はアフリカの中央部の熱帯森林の樹の上で生活していた。

簡単にいうと「ヒト」は「サル」から進化したと主張した。このことから、「人類の起源」をめぐる論争が、世界中にまきおこって騒然となった。

私達をみれば「サル」より優秀な頭脳・豊かな言語・高度の文字・芸術文化繊細な文明に明け暮れしているじゃないか。
その「人間」様のご先祖が「サル」なんてトンデモない。
「旧約聖書」にも“神様が人間をつくりたもうた”と、書いてある。
著しく「教義」に反して神様を冒瀆するもんだ！　馬鹿も休み休み言え。
と、教会は、猛然と喰ってかかった。

成る程・ルネッサンス以前だったら「聖書」に逆らうことは「首チョン」を覚悟しなけりゃならなかった。
地球は太陽のまわりを回っている（今では当然のことだが）とコペルニクスが地動説を纏めたのが１５４３年・それを観測事実から正しいと発表して教義に反すると決め付けられて、ガリレオ・ガリレイは「宗教裁判」にかけられ主張を撤回した。

ガリレオの死後・３５０年経った１９９２年（５年前）・ローマ法王ヨハネパウロⅡ世が正式にガリレオに謝罪したのは記憶に新しい。
元来「宗教上の教義」と「科学上の法則」は視点が違う。肝心の目的が違う。なんでもかんでも教義を、ひっぱっりだすのは恐ろしい。ドウカナァ ーだ。

「アフリカ」こそ人類の故郷であるとダーウインは主張したが、証明されたわけじゃなくから「仮説」といった方が適切だ。
ただ「アフリカ」は日本の縄文時代の頃には、治水・灌漑がすすみ農耕・牧畜による都市国家が生まれ統一した国家を成立・ドデカイ、ピラミッドを築き・その遺跡は現存している。

にも拘らず、皮膚の色が黒い土人が腰蓑一つで槍をもって気勢を挙げながら他の部落を襲ったり、獣を追い回す。日が暮れば電灯のない真っ暗闇で暮らす「アフリカは暗黒大陸だ」という印象のみが強烈なのは不可思議だ。
アフリカを労働力の供給地とし、アフリカ人を「奴隷」として売買」した。
１９世紀末から植民地として分割支配・メチャメチャにしてしまったのは列強のヨーロッパ人達ではないのか。

「ヒトのルーツ」や「生物の進化」の研究は「紙と鉛筆と小さい実験室」があれば出来るといったもんぢゃない。先ず研究の素材“化石”を発掘しなければならない。また、その化石が「ヒトのルーツ」に関係あるのか、更にどの位古い年代のもか、解決しなければならない。そのようにして「ヒトのルーツ」のアウト・ラインが段々明確に描けるようになった。

今から６５００万年前・１億８０００年間の長期間、地球を独占・闊歩してきた「肉食恐竜・草食恐竜・恐鳥達」の時代は、何故か終焉した。
そして何故か「チッポケな哺乳類達」が生き延び、表面に登場・哺乳類の代表として「人間」が横行する「現代」に至っている。

６５００万年前・「プリガトリウス」猿の祖先といわれる小さな動物の化石
１８００万年前の地層から「プロコンスル猿人」チンパージー・ゴリラ・ヒトにつながる化石が発見された。
４００万年前の地層から「アサール猿人」　身長１ｍ・体重３０Ｋｇの骨格。
二本の足で地上を歩行した猿人の化石が発見された。
２００万年前・「ロブストス猿人」「肉食獣」の餌食になった頭蓋骨も発見。
この猿人と同じ地層から簡単な「石器」も発掘され注目されている。

これら「猿人の化石」や遺物等は、いずれも赤道直下の「アフリカ」・南「アフリカ」から発見された。
更に「アフリカ」を舞台として１００万年前の「原人」へと進化した。
しかも、この「原人の化石と地層」から「火を使用した」ということが、判明した。
「火の使用」の発掘は「保温・防御・調理等」自然をもっと積極的に利用して活動範囲を広げ舞台を拡大した画期的な出来事だった。

「アフリカ」から「ヨーロッパ」「アジア」に移動・発展していった。
オランダの解剖学者デュボアがジャワ原人（ピテカントロピス）を発掘した。

中国周口店から北京原人の化石がみつかった。
これら原人は５０万年前に生存していた。
「火の使用」の痕跡もあった。また、発掘した大腿骨は、既にチンパンジー・オラウンタン・ゴリラ・より現在の人間に近かった。
さらに、１０数万年前の「ネアンデルタール人」
数万年前の新人「クロマニョン人」と段々現代に近ずいてきた。

日本列島に「ヒト」が住み着いたのは６０万年前で「旧石器時代」という。
日本海が出来て３万年・１３０００年前から「縄文時代」となる。
青森、三内丸山遺跡は、５５００年前・九州吉野ヶ里遺跡は、２５００年前・縄文、弥生と日本史の年表は、このあたりから賑ってくる。
そして、いまや世界人口は５５億人に達しようとしている。

ところで、「ヒト」は樹の上で「肉食動物」に食べられないで、撓わに稔る果実を食べる生活から、何故か樹を下りてサバンナを「さ迷い」歩いた。
それが「サル」と別れた出発点だと言われている。
古生物・地質・解剖学に素人であっても「ヒト」何故、樹を下りたのか？
色々思いめぐらし、推理してみると、大変興味深いと思う。

学者間では二つの対立した意見があった。
地質学上この時期は造山活動が激しかった。特に「アフリカ地域」のマグマ・パワーは強烈で「アフリカ」には南北に連なる高い山脈が出現して東西に分断した。おまけに森林地帯も減少し、ゆっくり生存する場所が少なくなった。

厳しい「自然と環境の変化」が「ヒト」と「サル」とを別れさせ「ヒト」が一抜けたと樹を降りた動機は一体何故かということだ。

その一つは「ヒト」は「大脳が大型になり知恵がついたから」要するにヒトは、サルより「お利口」になったから樹より降りたというのだ。
当然だが、知恵が発達するのは、脳が大きくなる筈だ。
「脳の容量」が１３００ｃｃ程で現代人と比べてそれ程違わないが、下顎は、類人猿と同一形態をもった「ピルト・ダウン人」の人体化石が、英国本土から発掘されたと報告され、矢張り「お利口が先」ということが裏づけられた。
ところがこの「ピルト・ダウン人」はアタマは人間・下顎は「チンパージ」のものを合体してデッチあげたものだと分かった。

「打製石器・握石器・剝片石器・細石器」へと「石器」も段々精巧になったが、アフリカから発掘したプロコンスル猿人・アサール猿人・ロブストス猿人の脳の質量は夫々４００ｇから５００ｇで、石器をつくらないチンパージーの脳の大きさとさほど違わないので「頭脳の発達」とは直接・関係ない。
単に「親指」と「人差し指」特に物を摑む「親指」の筋肉の働きが活発になったのだということになった。

じゃあ対立した理由のもう一方は、一体なんだということになる。
それは、直立して二足歩行（ロコモーション）した・出来たことだという。
極端な言い方だが、まっすぐ立って、二本の足で歩いたこと、だというのだ。
直立したことで、話すことができ、大脳が大きくなり現在の人間に進化した。

或る日、ふと寝返りをうって、這う。つかまり立ちして、一寸手をはなす。ヨチヨチ歩いてニンマリわら笑う。ヤッタネ！と、祝福されて人生が始まる。

新米を背負い　あゆめり　三歩半

直立して二足歩行（ロコモーション）するのは、単に人生が始まるだけじゃなく、実は「ヒト」となることだった。

戦争に負けて５０年・半世紀の長い一間・日本は戦争しなかった。
あたり前だが、戦争で一人の人も死んでない。また一人の人も殺してない。
世界の人々が、理想とする“平和憲法”を守り続け、非武装中立・専守防衛に徹して、生き生きと暮らしてきた。

戦争は“天災”じゃない。れっきとした“人災”だ。
どんな、ちっぽけな“戦争”よりも、与えられた・ささやかな“平和”の方がが、よっぽど良いんだ！と、いうことを忘れまい。

だが振り返ると「人間として失い」取り返しのつかぬものがある。
無為に送ってしまった「青春」がある。そして、いつしかみんな歳トシをとる。
長寿社会－高齢社会の一員になってしまう。

「黙ってあとからついてこい！」・「釣った魚に餌やるか！」とかなんとか男性達は自信満々だったが、女性達からみれば、傲慢だったに違いない。

会社じゃ「企業戦士」かもしれないが、単身赴任で「やもめ」暮らし。
山の神様が、いなけりゃ飯も炊けなない。「タテ」のものを「ヨコ」にもしない。洗濯なんて夢のまた夢。‘さるまた’なんてトンデモない。
手拭・靴下だって満足に調達できない「落武者ダメオヤジ」・とどのつまりは「粗大ゴミ・オヤジギャル」挙げ句の果ては‘濡れ落葉’まで零落れた。

仕事から放り出されたオヤジ達は活力を失い気力がない。髭は剃らない・髪梳かさない。締まりがなくなって、鼻水垂らす、何処でも屁を漏らす。
おまけに言語不可解・意味不明。臭くてウス汚い。オムツ・オシメも心配だ。

畳の縁(へり)にぶつかって転ぶ・物持ち上げると腰痛む。
新聞読めば目が疼く・道を歩けばケ躓く・階段昇りばヨレマクル。
走りゃ動悸が早くなる。病人じゃないが健康じゃない。
他人事じゃない、余生がナンボなのかトント解らぬが、もうすぐ我が身だ！
「寝起き」も介護・「お下も」も介護・おもっただけでも身震いだ。

濡れ落葉　杖つきて　なお　よろめきり

「杖つきて歩く日」がきっとくる。ヨッコラショ！　躓いてバッタンQ・
「杖の要らなく日」がくる。　「ヒトの一生」　オ・ワ・リ。

杖一つ　団栗ちらばる　土間のすみ

だから歩こう。難しく考えないで、ただ歩こう。

富士登山

大茅の輪ゆらし　神輿のくぐりけり
蟻族のごと　山あれば山　目指す
装蹄師　富士をそびらに　汗し打つ
海抜一万尺の声　聞いている　登山杖
汗の馬　雲の切れ目を　登り来る
仰臥して富士山頂や　天の川
ご来光　待つ昂ぶりや　峙き岩
ご来光　雲海はるか　割礼す

塚越としを　二十五電気

菊師来て　まづは葉色の艶を誉む
掃苔や　父の墓前に句を献ず
老い先にアーチをかけて　秋の虹

青枇杷にすこし遅れて　日の回る
ぼうふりの天に　眩しく　ノックして
綾織りの映　むらさきに菖蒲園

カメレオン　口腔昏く　梅雨明くる
四尺にて　足りる柩や　西日中
卒寿てふ女将を誉めて　菊膾
さわさわと　光を育て　水の秋
牡丹焚火　崩るるさまを青とみし
中天に魂揺らぎをり　牡丹焚

男の実感

曽根　勉　　５３機械

今年は久しぶりに多賀工業会千葉県支部総会に出席した。
同窓会理事長の鈴木先生をはじめ諸先輩方々とお会する機会をえて、お話を伺いながら楽しい一時を過ごすことが出来た。
なかなか自発的に出掛け難いもので、ご案内を戴いたことを感謝している。

９月・息子達の小学校で運動会が行われ、私もテント張りや杭うちなど準備にでかけた。校長先生の呼び掛けによるものだが、大ハンマーを振って杭を打つ父親の姿は、子供達の目にはなかなか頼もしく映るらしい。
父権の面目躍如たるところである。
校長先生とも一時間程お話した。先生は様々な機会にお父さん達が学校にきて欲しいと期待しているとのこだった。

男性はとかく社交的に外に出掛けるのが苦手なものである。
特に技術屋はその傾向が強いと感じている。世間を広めるには先ずどこかに出掛けていって人に会わなければならない。ちょっと煩わしいが生き生きと生活するために会社以外のところにももっと顔を出してみる気持ちになった。

平成８年度・年会費納入者氏名　（　略敬称　）

１６　前田晴朗　田中康雄　長尾和愛　原田正夫　渡辺義治　杉本喜久雄

１７　羽鳥忠雄　地曳一夫　檜山良平　寺山　巌　塚原　重

１８　酒井清勝　加藤清明　大内　弘　石井弥二郎

１９　大木一郎　木村一夫　鈴木幸男　萩谷　進　小林秀夫　柴　敏夫

　　大山　巌　杉原達男　山田泰雄　佐々木　勇

２０　白鳥忠雄　鳴田　清　小山英一　宮川澄夫　隈本孝之

２２　福地敏郎　明石和夫　高山和夫　川崎幹夫　安達恵三郎

　　井川滋郎　山本芳正　佐藤　豊　川又慶三　中村善一郎

２３　松平静和　鈴木利久　高橋長男　清宮文雄　篠崎光夫　平塚新兵衛

　　川上昭二　保立辰巳　矢口三郎　一木　忠　三橋　宏　海野政之助

　　川田浩宗　岡村哲夫　高島謹一　大久保勝躬

２４　榊原信行　河野吉次　三幣正人　草刈　薫　栗谷川文司

２５　小河　孝　森　勇一　塚越要夫　稲葉信彦　小林喬夫　野田茂信

　　大塚恒男　宮島正弘　高松恒夫

２６　熊谷達夫　川上　明　飛田良雄　岡安孝捷　長谷川宏佑

２８　関田達雄　橋本武夫　山田　允　吉田哲夫　石島　均　税所　裕

２９　北村　健　大津正夫　大津勝男

３０　檜山良邦　綿引敏雅　目黒　久　中野義正　木戸田松吉

３１　田中　宏

３２　大越勇一　段家文彦　大和田武義　吉田破魔夫

３３　照沼義光　薄井徳彦　皆川孝之　藤岡英智郎

３４　横山木積　高橋孝雄　　３６　小室哲夫

３７　富田宣吉　佐藤栄一　佐藤哲雄　古橋弘治　遠藤芳勝　障野友久
　　森川義久

３８　渡辺富勝　箱崎光政　高見忠彦　高萩隆可

３９　高崎芳紘　近藤晴史

４０　川野辺建　望月晴雄

４１　渡部昭夫　柴　　勇　黒川道生　木村　保

４２　浜野紘一

４５　中台重樹　　４６　浅野哲夫　沼倉研史

４７　金坂　潤　薄井秀治　　５２　田中　隆

５３　石渡晃夫　曽根　勉　　５４　坂田照夫

５６　平野茂木　中村祥孝　　５９　鈴木　馨

６３　望月輝久　都築宏昌

Ｈ１　山村　恵　宇佐美直之　　Ｈ２　押田正樹

Ｈ３　笠原康嗣　寺西浩之

Ｈ４　阿部哲也　和賀修一　賀川宣英　　Ｈ５　山崎寛介

Ｈ６　飯田直之　寺西　明

Ｈ８　多田昌直　浅井宣裕

Ｈ７　遠藤誠可　田杭秀規　高岡直美　出山浩行　宮内宏和　高田康利

旧職員　三好洋子

20　16　6　6　7　2

［以上１５５名］

御協力ありがとうございました。　幹事一同

57